

基本方針 (所属の目標)		自宅学習の習慣化を図る事により、自ら学ぼうとする意欲と態度を身に付けさせ、新しい情報や技術・知識に対応し、有効に活用できる人材の育成を図る。			次年度に向けて	
① 教務・学校環境部	番号	年間指導目標 (期待される役割)	具体的な取り組み(役割達成のための手段)	ゴールイメージ	年度末評価	
	1	成績不振を理由とする原級留置を無くし、生徒全員の進級・卒業を目指す。	①学期末テスト1週間前の成績不振者指導を行う。 ②「日々課題」により、自宅での学習習慣の定着を身に付けさせる。 ③職員研修や授業公開を実施し教科指導力の向上を図る。	自ら学び、自らを高めようとする意欲・態度の育成。	A・(B)・C・D ・成績不振者指導対象者に向けて担当教科担、担任を中心に、指導を行っていた。次年度に向けて、日頃から計画的、組織的な指導を行い、成績不振者の減少を図りたい。 ・「日々課題」による学習習慣の定着は身についているが、課題出題方法の検討が必要である。 ・ICT機器を活用した授業の公開授業等を実施し、教科指導力の向上を図ることができた。	・成績不振者指導の在り方の検討を行うと共に、成績不振者指導対象者に向けた計画的、組織的な指導を行い、成績不振者対象者0名を目指す。 ・新学習指導要領について、今年度の課題の改善を行う。 ・新しい研修制度での計画を立案し、より一層の教育の情報化の推進を図る。 ・授業での購入端末活用の共有を図ると共に、取扱いに対する指導(持ち帰り、充電等)の徹底を行う。 ・集会や式典での望ましい態度の育成を図る。
	2	緊急事態等に対する迅速な連絡・情報公開と、本校の取り組みや成果を知ってもらう広報を目指す。	本校ホームページや安心安全メールを活用し、緊急事態等に対する迅速な連絡・情報公開や、本校の取り組みや成果を随時掲載するよう努力する。	地域に根ざし、地域に開かれ、地域と共に歩み信頼される学校づくり。	A)・B・C・D ・新聞を始め、様々なメディアに取り上げていただき、本校の取組を地域の方に知っていただく機会となった。安心安全メールの活用により、保護者、職員への迅速な連絡の徹底に繋がった。	・集会や式典での望ましい態度の育成を図る。 ・清掃活動の意識向上を図る。
	3	「教育の情報化(ICT化)」に対応した授業の在り方・進め方を模索・推進する。	GIGAスクール推進事業に伴うICT活用のための環境づくりや職員研修等を行い、教育の情報化(ICT化)を進めていくよう努力する。	ICTを効果的に活用したわかりやすく深まる授業の実現。	A・(B)・C・D ・担当の職員を中心にICT活用のための環境整備、職員研修、1年生の一人一台端末導入と活用等、スムーズに行うことができた。1年生の購入端末の故障が多く、対応に手間取った。(次年度は業者対応)・2、3学期ICT機器を活用した授業の公開授業等を実施し、多くの先生方に参加いただいた。今年度は、環境整備が進んだこともあり、授業や学校行事などでのICT機器の活用も多かった。	
	4	都城農業高校生としての態度づくりを推進する。	①始業・終業時および授業開始・終了時の礼法を徹底する。 ②職員や生徒会と連携し、集会や式典での望ましい態度の育成に努める。 ③生徒自らが校内環境の維持・向上を意識し清掃活動を行う。	望ましい本校生徒のあり方について生徒・職員間の連携を図り、同じベクトルの向きで指導に臨む。	A・(B)・C・D ・放送やオンラインによる集会がほとんどであったが、各クラス静かに話を聞いていた。清掃への意識が低いように感じる。職員、生徒と共に、清掃活動への意識向上が課題である。	
基本方針 (所属の目標)		学校の活動を通して「自己敬愛・知徳耕道・見聞知行」の精神を踏まえ、規範意識を高めると自己指導能力を高め、生徒学校活動で輝くことができるように、自ら行動し積極的に学校行事に関わっていくように指導し、「知・徳・体」調和のとれた生徒の育成に努める。また、様々な悩みを抱える生徒一人一人に対してきめ細かく対応し、全ての生徒が自尊感情を育みながら学校生活が送れるよう、教育相談体制を整え、側面から支援していく。			次年度に向けて	
② 生徒総合支援部	番号	年間指導目標 (期待される役割)	具体的な取り組み(役割達成のための手段)	ゴールイメージ	年度末評価	
	1	生徒が企画・運営する活動を増やし、問題点の抽出と改善策の立案、実行を行わせる。	①学校行事等に対して、生徒会・各種委員会、部活動生を中心に、生徒自ら企画・運営に積極的に関わらせ、生徒が積極的に行事に取り組みることができるようにする。 ②部活動主将・部長会を計画的に開催し部活動の活性化を図る。	生徒が自ら行動し、自らを律する力を身につける。学校行事の成功、部活動の活性化。	A・(B)・C・D ・コロナ禍の難しい状況であったが、その中で生徒が自主的に行動し、計画、実行することでアグリフェスティバルやクラスマッチなど行事を無事終了することができた。 ・部活動も集会を開くなど活性化を促し、運動部を中心に大会等の実績も向上した。	[生徒指導] ①生徒がより主体的に活動できるよう、行事に向けて、計画・立案・準備を迅速に進めていく。 ②継続して、部活動全体でレベルアップを図る。
	2	特別指導・生活改善指導カード・携帯電話指導カード指導対象者の減少と指導の見直しを行う。	①委員会活動を主体とした常時指導に加え、効果的な特別指導・生活改善指導カード指導を実践し、規範意識の向上を図る。 ②特別指導の充実を図る。 ③携帯電話やインターネットの危険性(誹謗中傷)を認識させ、その取扱いを指導する。	特別指導の10%減少。 生活改善指導カード指導対象者の10%減少。	A・(B)・C・D ・特別指導 昨年度は12件(10名)であったが、今年度は8件(14名)であった。4件・1名の減少となった。 ・生活改善指導カードの発行枚数は大幅に減少となったが、3枚以上の生活改善指導集会参加者は昨年度と同程度となった。 ・特別指導の充実化ははかり、携帯電話による指導も減少してきている。	②指導を受ける生徒を減らしていくために、先生方や生徒会、保護者と連携した教育環境を整える。また、校則等の見直しも回り、生徒が主体的にルールを守っていく環境を作る。 [教育相談]
	3	「誰でも」「誰にでも」安心して相談できる学校を目指す。	①教育相談情報を発信する。(生徒・保護者向け、教職員向け) ②積極的な情報交換を実施する。 ③全職員が教育相談への理解を深め、教育相談に関わる技能を高められるように支援する。	・生徒、保護者、職員が安心してSOSを発信できる。 ・全職員が教育相談への理解を深め、教育相談に関わる技能を高めることができる。	A・(B)・C・D ①③個別対応に追われ、情報発信や先生方のサポートを行う余裕がなかった。②関係の先生方と積極的に情報交換を実施できた。直接来て話をすることで多角的・多面的な支援につながったと実感している。お忙しい中お時間を頂き、ありがとうございました。	①「誰にでも」相談できる、「誰でも」対応できる教育相談を構築するための取り組みが必要である。 ②関係機関との連携については、現状、生徒(保護者)と外部機関をつなぐ前に、まず学校での対応が求められているので、学校と外部機関とがまずは連携をとれる可能性を探ってきたい。
	4	「みんなで」「様々なアプローチで」実施する支援をコーディネートする。	①子どもの実態やニーズに応じて適時、的確に、多面的から支援を実施できるように、外部専門機関やエアコーディネーター、SC、SSCと積極的に連携し、「様々なアプローチで」実施する支援をコーディネートする。 ②関係職員との円滑な「報告・連絡・相談」をコーディネートする。 ③情報収集を積極的に実施し、連携できる関係機関を広げていく。	多様な悩みや不安を抱える生徒と支援者が、「みんな」	A・(B)・C・D ①今年度は外部機関との連携は少なく、校内対応がほとんどであった。②複数の生徒を同時進行で対応しなければならない場合の組織的な対応の在り方に検討が必要である。	

③ 進路指導部	基本方針 (所属の目標)	本校の生徒が確かで堅実な人生設計を描き、自己の適性に応じて能力をフルに発揮できる職業人として生きる力をつけさせ、経済的な自立を図れるよう的確な進路指導を行う。また、生徒の多様化に応じた進路指導を推進する。			次年度に向けて	
	番号	年間指導目標 (期待される役割)	具体的な取り組み(役割達成のための手段)	ゴールイメージ	年度末評価	① 進路ガイダンスの実施時期を次年度は、3年生が5月、2年生が12月に開催予定であり、また、1年生には進路講話を12月に開催予定である。 ② 進学において、特に国立大学の指導計画の確立及び出前授業等の専門的な内容に触れさせ、進学の強化を図る。進学課外については、各教科と各学科の連携強化に努めたい。 ③ 本年度もリモートでの面接や応募前見学が少なくなかった。そのため、今後も面接練習等での指導対応に努めたい。 ④ 上級学校・企業との対応、生徒への個人面談・各種会議等での利用があるため、進路資料室へのエアコン設置を要望する。
	1	進路決定100%	進路ガイダンス、三者面談等を通して、進路目標を設定させ、進路実現するための手立てを考えさせる。また、企業及び上級学校等の情報を十分活用し、就職内定率、上級学校合格率の向上につなげる。	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導を行い、進路実現をさせる。	A・(B)・C・D 進路ガイダンスでは、生徒に応じた上級学校や企業を迎え、説明会を開催でき、年間を通して継続的な指導ができた。	
	2	面接・小論文の徹底	面接指導は、進路指導部を中心に、各担任、各学科、各教科の先生方全員からの指導を徹底させる。また、小論文指導は、国語科の協力を得ながら徹底させる。	進学試験、就職試験に対応できる面接・小論文の力を養成する。	A・(B)・C・D 職員研修を実施し、主職員と面接指導ができる体制を整えることができた。小論文指導においても国語科の協力の下、進学・就職ともに対応ができた。	
3	早期の希望進路決定	「総合的な探求の時間」や「LHR」を利用して生徒の進路意識の高揚を図ることで、早期の希望心を決定に繋げる。	生徒が早期に希望進路を決定し、実現するための手立てを取ることができる。	A・(B)・C・D 年間行事の中に二者面談、三者面談、進路ガイダンス、各種説明会等を継続的に取り入れることで効果的な進路指導ができた。		
④ 保健体育部	基本方針 (所属の目標)	心身の健康の保持増進のための実践力の育成と体力向上を目指し、積極的に運動を実践し自己管理できる能力を育成する。			次年度に向けて	
	番号	年間指導目標 (期待される役割)	具体的な取り組み(役割達成のための手段)	ゴールイメージ	年度末評価	1 次年度も県の体力優良校表彰を受けられるように、各生徒に目標を設定させ、体力の向上を目指す。 2 生徒の健康管理や災害状況を全職員で共有できるようなシステムを構築する。とくに、部活動での怪我等の連絡等がある場合もあるので、全職員で徹底していきたい。 3 緊急時の対応ができるように、今年度本校で作成した緊急時対応マニュアル「コウメ」を活用した研修会を開催したいと考えている。 4 新型コロナウイルスが5月に以降に5類に変わるのを受けて、4月から健康観察簿への体温の記入をやめる方向である。ただし、1・2年生については、5月まではタブレットでの体温入力を継続する予定である。 5 保健体育科、教務、生徒会と連携し、生徒が集会等で主体的に行動できるように支援していく。
	1	体力の向上を目指し、たくましい心身の育成を目標に、体力の向上を目指す。	①昨年度、体力優良校を受賞したので、さらなる自己の体力を向上を目指す。 ②体力向上プランに基づいた授業での体力作りを実施する。 ③生涯スポーツを目指し、自ら意識してスポーツを楽しむ能力を育成する。	・生徒一人一人が意識して運動を行う習慣が身につく ・体力が向上する。	A・(B)・C・D 昨年度と比較すると、今年度の部活動での展開することができた。今年度も体力優良校の表彰を受け、生徒の体力は向上していると思われる。	
	2	体調不良に伴う保健室の内科的利用者を600人以下にする。	①担任や部顧問との連携や情報交換を行う。 ②保健委員会活動を充実させる。	・全職員と生徒の健康管理について把握を行うことができる。 ・生徒自身の健康管理能力が向上する。	A・B・(C)・D 担任や部活動顧問からの生徒情報共有をほぼ行うことができた。健康観察簿については、かなり浸透しているが、まだ朝に提出できないクラスもある。2月末までの保健室利用者が内科689名、外科173名、合計862名で目標を達成していない。	
	3	危機管理意識の向上を目指す。	①避難訓練を実施する。 ②AED講習会やエビベン講習会を実施する。 ③熱中症や怪我等の発生時の対応を職員間で周知徹底を図る。	・緊急時に避難することが出来る。 ・緊急時にAEDを適切に使用できる。 ・生徒の体調不良時に適切に対処できる	A・(B)・C・D 新型コロナウイルス感染症の関係で避難訓練については、避難経路の説明だけで終わってしまった。AED・エビベン講習会については受講者の人数制限があったものの、教職員向けに実施することができた。また、各方面の協力を得て、緊急時対応の冊子を作成することができた。	
4	集団行動や礼法指導の充実を図る。	①授業等での集団行動、礼法指導を徹底する。 ②集会が開催されたら、教務部と連携を図り、指導を行う。	・生徒が全校集会や式典においてその場にふさわしい行動ができる。	A・B・(C)・D 今年度は全生徒が集合する集会は開催されなかったが、来年度の5月に以降は実施できる可能性が高いので、体育の授業等を通して、集団行動を徹底していきたい。		
⑤ 図書・視聴覚部	基本方針 (所属の目標)	図書、視聴覚教育の資料、その他学校教育に必要な資料を収集し、整理し、保存し、生徒及び教員の計画的な利用・活用を促進する。また、学校の教育課程に寄与し、生徒の健全な教養を育成するとともに、主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させる。			次年度に向けて	
	番号	年間指導目標 (期待される役割)	具体的な取り組み(役割達成のための手段)	ゴールイメージ	年度末評価	①朝の読書 全職員での連携指導により、一層の習慣化と形骸化防止を図る。(タブレットの使用規定の遵守) ②図書委員会 カウンター当番だけでなく、選書やコーナー展示などにも積極的に関わらせ、貸出数や来館者を増やす。図書委員会として学校行事にも参加していきたい。 ③購入図書 生徒や職員のニーズにあった選書に努め、小論文指導やキャリア教育にもつながる様々な分野、テーマの本を充実させる。またLibrary Timesや新刊案内にも内容を深め、情報を発信していく。
	1	「読書センター」としての機能を充実させる。	「朝の読書」の充実を図り、生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心を育む。新刊案内や「Library Times」を定期的に発行する。	生徒が意欲的に読書に取り組み、図書貸出数が増加する。	A・(B)・C・D 貸出数は昨年に比べ減少したが、多くの生徒にじつじつと読書に取り組む姿勢が見られた。学校司書のレファレンスを利用する生徒も増えた。	
	2	「学習・情報センター」としての機能を充実させる。	生徒の自主的、主体的な学習活動を支援するとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成する。	図書館や視聴覚室での授業が増加する。また生徒が資料を活用し、主体的に学習できるようになる。	A・(B)・C・D 図書館のレイアウトを変えたので、授業しやすい広さになった。しかし、視聴覚室での授業は多いが図書館での授業はまだ少ない。	
	3	教員のサポート機能を充実させる。	教科指導のための研究文献や、教材として使える図書などを集めて利用できるようにし、こうした資料のレファレンスや取り寄せ(マイライオン)等のサービスを行う。	教員の図書館利用、貸出数が増加する。	A・(B)・C・D 探究の時間や農業クラブ関連の連携がなかなか取れていない。マイライオンの利用がなかったので、再度情報発信をしていきたい。	
4	「心の居場所」としての機能を果たす。	昼休みや放課後、教室内の固定された人間関係から離れ、生徒が一人で過ごしたり、他学年の生徒と関わったりすることができる場所とする。	昼休みや放課後の図書館来館者数が増加し、生徒の憩いの場となる。	(A)・B・C・D 読書に限らない憩いの場として利用する生徒が多い。他学年、他学科の生徒の交流の場となっており、居心地の良い雰囲気づくりができ		

基本方針 (所属の目標)		PTAと連携し、地域に根ざし地域に開かれた信頼される学校をめざす。			次年度に向けて	
番号	年間指導目標 (期待される役割)	具体的な取り組み(役割達成のための手段)	ゴールイメージ	年度末評価		
⑥ 渉外 厚生部	1	新しい生活様式における新たなPTA活動内容の検討	コロナ禍で実施可能な活動について検討し実施する。	生徒のために何ができるかを考えたPTA活動の充実	A・B・C・D ・コロナ禍でも、出来る範囲内でPTAと協力し活動できたのでよかった。 高P連秋季研究大会やPTA新聞の作成など。	・PTA総会や学年PTA、アグリフェスティバルなど、コロナ前の活動にどこまで戻すのかも見直す時期である。特に、経験者が少ない行事については、職員も含め早めの対応が必要である。また、保護者とコミュニケーションをとる機会が少なかったため、PTA役員会などを開催し保護者の思いやアイデアを聞くことも大切である。 ・生徒達のためにプラスになるPTA活動を、保護者と協議しながら再構築する必要がある。
	2	職員の親睦を図る行事の検討	コロナ禍で実施可能な親和会の行事等を計画し実施する。	職員の親睦を深め、働きやすい環境づくりにつなげる	A・B・C・D ・歓迎会の代替として行った弁当配布、送別会は幹事により企画出来たが、その他は出来なかった。	・部内での役割分担を見直し、人数調整をした方がよい。 ・全職員が一つになるような行事を開催したい。
基本方針 (所属の目標)		魅力ある学校へ向けての教育環境整備の推進及び光熱費の増大の抑制を図る			次年度に向けて	
番号	年間指導目標 (期待される役割)	具体的な取り組み(役割達成のための手段)	ゴールイメージ	年度末評価		
⑦ 事務部	1	教育環境の充実	老朽化した施設等の改修並びに防疫・新学習指導要領に対応した施設設備の導入・設置を行い、生徒や教職員の期待に応える教育環境の充実を図る	生徒・職員が安心安全に学ぶことができ、教育効果の向上に繋がる設備等の充実を図る	A・B・C・D 突発的な軽修繕への早めの対応、危険建物(売店)の解体、温室制御盤更新、体育館外階段修繕、台風災害復旧等の工事を実施し教育環境の充実を図ることができた。	①老朽施設設備の改修・更新を今後も継続して計画的に実行していく。 ②随時、予算執行の状況について情報提供を行い、年度末に物品の購入が集中しないようにする。 ③長期滞納が生じないように、担任等との連携を図り、未納保護者への連絡をこまめに行う。
	2	予算の適正な執行管理	学校運営で課題となっている物品・設備について、各校務・部科等と連携して緊急性や重要性の高いものから取り組む。予算の進行管理を行い、公金・準公金について相互チェックによる適正な予算管理を行う。	予算状況を把握し、職員と連携を図りながら、必要性・緊急性を勘案して優先順位の高いものから計画的に執行するとともに、公金・準公金の適切な執行を行う。	A・B・C・D 電気料高騰のための配分予算調整を行い、できるだけ要望に添う形で、概ね適正に予算管理を行うことができた。今後も予算を見ながら要望に応える執行を行う	
	3	校納金の適切な徴収	校納金徴収にあたっては、保護者への連絡を迅速に行うとともに、未納者に対しては学級担任等と連携して情報を共有し、丁寧な面談等を実施して確実な取納を図る。	校納金の納入率100%を目指す。	A・B・C・D こまめに電話催告、文書の発行等を行い、納入を図った。未納者が数名いるが、引き続き納入依頼を行い、年度内完納を目指す。	
基本方針 (所属の目標)		農業に関する施策を基調とした、高い専門性に立脚した特色ある教育活動を展開しながら、「農業教育基幹校」として宮崎の農業と関連産業を支える人材を育成する。 また都城・北諸県地域の農・食・環境・加工・福祉等の分野における問題解決能力を高め、持続可能な社会の形成と発展を担う人材を育成する。			次年度に向けて	
番号	年間指導目標 (期待される役割)	具体的な取り組み(役割達成のための手段)	ゴールイメージ	年度末評価		
⑧ 農務部	1	地域社会と連携した農業教育の推進	都城・北諸県地域や関連機関と連携した特色ある農業教育を実施し、農業分野や地域産業を支え、活躍できる人材の育成。	農業・学科関連の就職・進学 【60%以上の達成】 教育機関、地域企業等との連携活動 【各学科2件以上の実施】 中学校、地域への教育内容の情報発信 【各種マスコミ掲載5件以上】	A・B・C・D ○農業・学科関連の就職・進学(122/194、62.9%) ・農業大学校10名、農業協同組合5名、公務員35名 ○各種マスコミ掲載-新聞10回、Mーション1回(E)、テレビ放送(C)、みやざき部活動応援フォトマガジン(L) ○各学科で修業機関との連携活動実施	・魅力ある学科作り ・生徒満足度のアップ ・各学科の特色を活かした人づくり ・相互理解と協力による特別会計運営 ・各学科を主体とした中学2、3年生へのアプローチ
	2	キャリア教育の推進	デュアルシステムやインターンシップ及び企業見学、外部講師招聘等を活用したキャリア教育を推進し、持続可能な社会の形成と発展を担う人材の育成。	デュアルシステムの実施 【A、Z科10日 L、C科5日】 インターンシップの実施 【E科4日】 外部講師招聘 【各学科1回】 元企業等見学 【各学科1回】	A・B・C・D ○デュアルシステム2A・2Z-9日、2L・2C-5日実施 ○インターンシップ2E-4日 ○農家・企業視察、外部講師招聘等計画通り実施	
	3	農業クラブ活動の充実と資格取得の推進	学科の特色を活かした農業クラブ活動の充実と各種大会での上位入賞への取り組み。将来の自己実現を達成することができる各種検定・資格取得の指導。	農業クラブ大会、その他大会・応募 【入賞 5件以上】 資格取得 【4種目以上/卒業時(平均)】	A・B・C・D ○農く全国大会(農業鑑定)5人優秀賞 ○農く九州大会(7ロケット)出場-C科食品製造 ○農く九州大会(意見発表)出場-L科Ⅱ類 ○日本農業技術検定3級-(101/141、71.6%) ○オーレク川柳入賞-12 ○第16回あなたが選ぶ日本一おいしいお米コンテスト:高校生部門(優秀金賞)-A科郡元農場 ○資格取得(52個) ・情報処理5冠-5名、3冠-81名	
	4	DXを活用したスマート農業教育の実践、「GAP」、「HACCP」教育の充実	「DX」や「スマート農業」等に関する知識・技術の習得と、「GAP」、「HACCP」教育の推進。	生徒へのDX機器研修 【各学科3回以上の実施】 GAP認証の継続、GAP教育の実施 HACCP教育の実施	A・B・C・D ○A科「トマト」/「コマ」GAP認証継続 ○R3生乳品質優良事業所認定-2科 ○各学科DX機器、施設の活用による授業を展開	